

Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより 第28回

# 宇都宮専売支局

宇都宮専売支局の正門



（宇都宮専売支局）宇都宮市本町二丁目

下野国にたばこ栽培が伝えら

れたのは江戸時代初期の一六一六（元和二）年のことである。武茂郷（馬頭）時宗香林寺の住職相阿和尚が、江戸から上野国の達磨たばこ原種館葉の種を持ち帰り、境内で栽培したのが最初だった。和尚は、近在の農家にたばこ栽培を勧め、やがてはその質の高さから水戸藩に献上されるまでに成長。「大山田たばこ」と称され、江戸に向けて盛んに出荷されるようになった。一九一三（昭和三）十一月、香林寺跡の別雷皇太神社境内に、和尚の功績を讃えた「煙草創裁碑」が大山田煙草生産同業組合の手によって建立され

た。

たばこを国の専売制と定めた「業煙草専売法」が施行されたのは一八八八（明治三十二）年のこと。これにより耕作規制の強化、営業資格の制限が始まり、一九〇四（明治三十七）年に「煙草専売法」が施行されると、原料の葉たばこの買い上げから、製造、販売まですべてが国の管理下に置かれることになった。業者の反対を押し切り専売制に踏み切った理由は、日露戦争による戦費調達にあつたといわれる。

専売制により「宇都宮煙草製造所」が旭町に設置されると、両紙巻たばこの全工程、口付紙巻たばこの大部分を直営で製造するようになった。一三（大正二）年、宇都宮専売支局に昇格。二一（大正十）年には、茂木専売支局を統合し宇都宮地方専売局となった。大正末期には従業員千五百人を誇る大工場に発展。「あやめ」「白梅」など刻たばこ六銘柄、「朝日」「敷島」を主に生産した。一九三〇（昭和五）年には、政府による行財政整理により統廃合の対象となったが、宇都宮商工会議所の陳情により回避。戦

時中は品川工場から製造機械の疎開を受けるなど、生産の強化にあつたが、四五年七月の宇都宮空襲で灰燼に期した。

戦後はいち早く復旧し、操業を開始。四六年には鶴田町の旧兵器支廠跡（現宇都宮短期大学附属高校）に工場を移転、新設した専用側線で日光線鶴田駅と連絡した。のちに専売局は、新たに発足した日本専売公社に移管され、七七年（昭和五十二）年三月、清原工業団に移転し現在に至る。



戦後発足した日本専売公社宇都宮地方局



現在の日本たばこ産業㈱北関東工場